

FAL C90EXW 駆動アンプの 選択(7)

—LXA-OT1 アンプの適用—

1. はじめに

[前報\(6\)](#)に引き続き、ステレオ誌付録のデジタルアンプ LXA-OT1 で駆動してみます。

2. デジタルアンプ LXA-OT1 による駆動の試聴方法

今回使用するのはステレオ誌付録のデジタルアンプ LXA-OT1 です。しなの音蔵オリジナル 300B シングルアンプに繋いでいるムジカライザーのケーブルを LXA-OT1 アンプの端子に繋ぎかえますが、LXA-OT1 アンプのスピーカー端子は差し込み式ですので、差し込み式端子の上に foQ シートを貼ります。スピーカー端子からは Western のケーブルで引き出し、ムジカライザーのケーブルとバナナプラグのネジ穴に差し込んで接続します。ムジカライザー以降はスピーカーリベラメンテのバイワイアリング駆動となっています。なお、スイッチング電源には iPurifier DC を加え、電源の差し込みプラグにも foQ シートを貼ります。

3. デジタルアンプ LXA-OT1 による駆動の試聴結果

デジタルアンプ LXA-OT1 については[デジタルアンプによるバイアンプ駆動](#)を試みており、その後、スイッチング電源の [iPurifier DC 付加効果](#)も調べていますので、今回は iPurifier DC 付加した状態での LXA-OT1 によるバイワイアリングを検討することになります。

このデジタルアンプはゲインが低く、低域の力がないので小音量でひっそりと聴くだけの用途にしか向いていないと思います。しかし、高域はすっきりと伸びて爽やかな音がします。

4. まとめ

デジタルアンプ LXA-OT1 は、多くは望めませんが、小音量で用途を限れば、すっきりと伸びて爽やかな音を楽しめます。

以上